

「応用力のタネ」をまこう。

サクラサク 中学受験 Jr.



家庭学習コンサルタント
坂本 七郎 著

Copyright© DREAM EDUCATION CORP.

はじめに 小3までにやらなくてよいこと、やるべきこと。

あなたに1つ質問があります。

中学受験において、たとえば上位校に合格するためには、
低学年のうちからの準備が必要だと思いますか？

答えは、NO です。

・・・しかし、YES でもあります。

多くの親御さんは、

「できるだけ早く、中学受験対策を始めた方が有利である」

「早く始めた方が先に進むことができる。だから早ければ早い方がよい」

「先取り学習をどんどんさせたい」

と考える人が多いようです。

でも、あせらないでください。

先を急ごうとすれば、大事なものが見えなくなります。

じつは、いつから中学受験対策をはじめたかという

「スタート時期」はほとんど関係がありません。

大事なのはそこじゃないのです。

実際、早くから受験対策をはじめて、難関校に合格できる子はごくわずか。

たとえば低学年からの入塾組は、小6になるとほとんど上位クラスに残っていません。

わずか1・2人いるかいないかというのが現実なのです。

むしろ、無理に勉強をさせることで勉強嫌いにさせてしまうケース、小5以降に成績が伸び悩んでしまうケースも少なくありません。

私の感覚では、受験勉強の開始は、少し遅いくらいがちょうどいい。

子どもの気持ちが受験に向かい、気持ちが固まったときに勉強の始め時です。

小4以上向けの私の教材『サクサク中学受験勉強法』で学習してきた生徒には、受験勉強のスタートが遅いにもかかわらず、

- ・塾にもいかずに志望校に合格した子
- ・習い事と受験を両立しながら希望の中学に入学した子
- ・小5、小6からのスタートで上位校に合格した子

がたくさんいます。

どうしてこのような差が出てしまうのでしょうか？

その子の頭が良かったから？親が優秀だから？DNAが違うから？

いいえ、生まれ持った能力自体には、そこまで大きな差はありません。

たとえ、そこに差があったとしても、その後の勉強方法や努力次第でいくらでも挽回できます。

成否を決めるのは、「スタート時期」や「頭の良し悪し」といった表面的な部分ではないのです。

■差が生まれる根本とはどこにあるのか？

では、どこで差が生まれるのか、
受験の成否に影響する根本の部分とはどこにあるのでしょうか？

3000組以上、中学受験をする親子を見てきて、気づいたこと。

それは、「育ちの中身」です。

これは、育ちがいい・悪い、という話ではありません。

私が言いたいのは、その子が受験勉強を始めるまでに、
何に触れて、どう育ってきたのか。その中身の話です。

その子が

- ・ それまでにどんな学力や習慣を身につけてきたのか
- ・ どんなことを体験して、何を感じて育ってきたのか
- ・ 親はどのように子どもと関わってきたのか

この3つが、その子の数年後を決める重要なファクターになっていることに気づいたのです。

特に幼児期から小学3年生くらいまでの間。

この期間に、何を与え、何を学ばせ、どう関わり、どう育ててきたかで、
子どもの学力の伸び方に、方向を与えていきます。

たとえば、歴史が大好きという子の家庭環境を考えてみてください。

その家庭では、小さな頃から父親が、名所旧跡に子どもを連れて行き、
いろいろな興味を引く話をしていたとします。

こうして歴史にじかに触れ、話を聞くことで、そこに興味が生まれます。
興味関心が出てくれば、じぶんから歴史まんがを読んだり、図鑑で調べたり
するようになります。

あるいは、家庭で料理の手伝いをしてきた子。

ニンジンをいちょう切りする、タマネギをみじん切りする。
こうした切り方1つでも、立体図形を学ぶときの吸収力は違ってきます。

あるいは、親がよく本を読んでいる家庭。

家のいたるところに本が置かれ、いつでも手に取れるそんな環境。
親もテレビを見ることよりも、本を読むことを優先している。
そうした家庭で育った子は、本が特別な存在になり、本に対する興味が高まります。

あるいは、親の子どもに対する声のかけ方。対話の量と内容。

子どもにどのように声をかけているか、親子でどんな対話をしているのか。
こうした毎日の何気ない習慣、日々の積み重ねが、子どもの思考の幅を広げ、
語彙力、聞く力、話す力といったスキルを高めていきます。

「でも、うちには歴史好きの夫もいませんし、料理も手伝う習慣はありませんし、
本もほとんど読みません。声のかけ方も自信がありません」

そう思った方もいるかもしれません。

でも大丈夫です。ここで紹介したのはほんの一例です。

他にも日々の生活に、ほんの少しの変化を与えることで、子どもの能力、考え方、学力を伸ばしていく方法はたくさんあるのです。

しかも、親子でいっしょに楽しみながらできる方法が。

この『サクラサク中学受験 Jr.』は、あなたがちょっとした変化を加えるだけで、ガラリとお子さんを変える、選りすぐりのトピックを紹介しています。

これまで私が中学受験に関わり、3000組以上の親子を見てきましたが、その指導経験のなかで蓄積してきた知識と知恵をこの本にギュッと凝縮しました。

机上の空論ではなく、すべて私の経験により選び抜いたものばかりです。

まずはこのテキスト全体を読んでいただき、あなたが興味をもったこと1つからでもよいので、少しずつ実践をはじめてみてください。

やれば分かります。実践をすれば、お子さんの変化に気づくはずですよ。

ご紹介する1つ1つが、子どもに良い変化をもたらすことが分かるはずです。

深く考え、答えを出したときの達成感。

むずかしいことにチャレンジすることの大切さ。相手を思いやる気持ち。

学ぶことの楽しさ、読書の喜び、親子の思い出づくり、心の成長。

サクラサク中学受験 Jr.には、お子さんの「学ぶ気持ち」を高めてくれるたくさんの引き出しが用意されています。

先取り学習よりも、塾通いよりも、ここを優先して取り組んでみてください。

数年後、あなたのお子さんが受験勉強をはじめたとき
ここで経験したことの多くが、受験勉強に深く結びついていることに気づくはずで

そう、ここで学力の伸びに、差が生まれるのです。

私は冒頭で、「上位校に合格するためには、低学年からの準備が必要ですか？」
という問いに対して、「NO（不要）ですが、YES（必要）でもある」と答えました。

この意味は、無理な詰め込み、無理な通塾、無理な先取りは「不要」。
けれども、“育ての中身”を深めるための行動は「必要」ということを意味しています。

あなたが中学受験を視野に入れているかどうかは私にはわかりません。

ですが、小学3年までに家庭でやっておきたいことは、
受験をする・しないに関わらず、この本に書いてあることがすべてです。

ここが、子どもの将来の学力を決める基盤となります。

あなたがすべきことは、
普段の生活の中に、本書で紹介しているよい習慣・よい体験をプラスするだけ。
子どもへの関わり方を、ちょっと変えていくだけでオーケーです。

それでは、楽しみながら、いっしょにがんばっていきましょう。
お子さんの勉強、そして成長を応援させていただきます。

家庭学習コンサルタント

坂本七郎

『サクラサク中学受験 Jr.』の構成と使い方

本書はあなたが迷わず取り組めるように、大きく3つのパートに分けて解説しています。

「しゅうかん」「たいけん」「おうえん」

この3つに分けています。

それぞれの中身は、次の通りです。

1. しゅうかん（習慣）

小学3年までに身につけたい受験のための基礎学力（読む力、書く力、考える力）。
これらを効率よく、かつ楽しく身につけるためのおすすめの学習法、市販問題集、市販教具をお教えします。

1日10分～20分、今までの勉強にプラスするだけで、手軽に、楽しく中学受験に必要な力を伸ばせます。

読書習慣、論理的に深く考える習慣、チャレンジ精神やねばり強さ、集中力が身につく、さらに朝学習や帰宅後の学習習慣を確立するための具体策も紹介します。

2. たいけん（体験）

哲学者カントは、「すべての知識は、経験に基づく」という言葉を残しています。

目で見て、耳で聞き、触り、味わい、においを嗅ぐ。楽しい、苦しい、不便、窮屈、汚い、つまらない、痛い、オドロキ、キケン、ハラハラ、ドキドキ、寂しい、怖い、美しい、心地よい、難しい、感謝、思いやり、感動、発見。

からだ全体、そして感情を使いながら経験したこと、体験したことは一生忘れない財産になり、同時に「学びのもと」となります。

勉強の“吸収力”は、この経験・体験の厚みで決まります。

小4以降の学力の伸びを決める「たいけん」を家族のイベントとして大いに取り入れてもらえたらと思います。

未体験アドベンチャーの世界に、どうぞ足を踏み入れてください。

3. おうえん（応援）

最後は、親と子の関わり方について解説するパートです。

学ぶ楽しさを知って欲しい、むずかしい問題にぶつかるとすぐにあきらめてしまう。続ける力を身につけてほしい。。。

そうした勉強時の親子の関わり方から、子どもを伸ばすほめ方、国語力を伸ばす対話の仕方など、小学生の子を伸ばす親の関わり方についてくわしく解説します。お子さんの成長を私といっしょに応援していきましょう。

以上、3つのパートに分けて、3部構成で解説していきます。

イメージとしては、

パート1「しゅうかん」・・・1日10分～20分、毎日の学習にプラスする

パート2「たいけん」・・・毎日の生活や、お休みのお出かけ候補として取り入れる

パート3「おうえん」・・・普段の子供との接し方、勉強のさせ方として参考にする
と考えていただければ結構です。

まずは、全体を読んでいただき、実践のイメージをつかみましょう。

最初に使う教材や読む本が決まったら、それを少しずつ揃えていきましょう。

一度にすべてを揃えることはおすすめしません。

使うものから1つずつ、読むものから1冊ずつ、揃えていくようにしてください。

また、このプログラムは、単に方法論を紹介しているだけの本ではありません。

読んで終わりというタイプのものでもありません。

『サクラサク中学受験 Jr.』は、私が直接あなたとお子さんのサポートをおこなう、個別指導型の学習プログラムです。

私とメールでやり取りしながら、お子さんにあった勉強スタイル、
お子さんにあった取り組み方を見つけていきたいと考えています。

実践中、（あるいは実践前でも構いませんが）もし何かお困りのことがあれば、
いつでもメールをお送りください。（メールアドレス sakamoto@k-ikuji.com）

お子さんの成長をともに喜び合えるような関係がくれたらなと思います。

それでは準備ができましたら、次のページに進んでください。

本編のスタートです。

サクラサク中学受験 Jr. 目次

はじめに 小3までにやらなくてよいこと、やるべきこと。	2
『サクラサク中学受験 Jr.』の構成と使い方	8
パート1 「しゅうかん」	14
3つの学力を「どう育てるか」が最重要	15
■「考える力」を育てる	17
「考える力」が伸びる厳選パズル 第1の門	19
「考える力」が伸びる厳選パズル 第2の門	24
パズルを解くモチベーションが下がったときは？	27
「考える力」が伸びる厳選パズル 第3の門	31
親子で楽しむ！考える力を伸ばすボードゲーム ベスト3	35
■「読む力」を育てる	37
論理的に読む力を伸ばすおすすめ問題集	38
読書習慣を身につける3ステップ	40
読書へのモチベーションを高める方法	52
坂本がセレクト！読書が大好きになるブックガイド	53
■「書く力」を育てる	58
「書く力」の基礎が身につくオススメ問題集	59
日本語の美しさに触れながら「書く力」を育てる方法	62
書くスピードが格段に上がる！作文お助け本	67
低学年のうちに使いたい「おすすめ漢字問題集」	68
「漢字が覚えられない子」を救う2つの方法	70
坂本おすすめ「しゅうかん」実践プラン	73
「基礎力ぐんぐんマップ」で、習慣化をサポート	76
パート2 「たいけん」	78
これからの中学受験で求められるもの	79
■生活体験をふかめる	83

思いやりの気持ちを育てるお手伝い 16 のリスト	85
工作と遊びで五感を刺激しよう	90
■ホンモノ・一流にふれる	92
“5つの非日常体験”が、子どもの心を強くする	93
お出かけを通して、子どもを成長させる 3ステップ	104
パート 3 「おうえん」	110
子どもの能力を引き出せるかどうかはここで決まる	111
声のかけ方 1 つで、勉強好きの子どもに変わる	112
「勉強は毎日やってあたりまえ」にする方法	116
勉強で手が止まったときは、こう声をかけよう	118
チャレンジ精神が育つほめ方、すぐあきらめる子になるほめ方	120
「つづける力」は、親の言葉でコントロールできる。	123
勉強が大好きになるとっておきのツール	126
国語力の土台は「親子の対話」にある	127
なぜ、吹奏楽部員には成績優秀な子が多いのか？	130
後天的にあたまを良くする 2 つの方法	131
おこづかいで、計画力の土台を育てよう	135
和の行事は、家族の絆をふかめてくれる	138
巻末資料	140